

英米文化学会会報

#011 Published 20 May 1992 Not for sale

★英米文化学会例会のお知らせ★

日時：平成4年6月20日（土）
場所：日本大学歯学部3号館第5講堂

- 1 「英語が外来語になるとき」
発表者： 高橋 祐子（城西大学）
- 2 「高校生における5文型に対する聞き取りの差異について」
発表者： 亀山 孝（共愛学園高等学校）
- 3 「移民と言葉——移民の視点から」
発表者： 小河原弘士（城西大学）

英米文化学会例会研究発表レジメ

英語が外来語になる時

高橋 祐子

1. 導入

実用英語検定試験の面接試験の時、英語をローマ字読みする受験生がいる。音声学習の不足か失敗がその発音上の誤りをおこしているものと思われる。ローマ字読みされがちな英語は、カタカナという様式によって日本語に既に
とりこまれている場合が多い。

この研究においては、英語を外来語として受け入れる時、日本人がどのような思考過程をとっているか検討する。

結果として英語学習に有効かどうか論じ、どのような方法で、外来語になっている英語を扱うか提言する。

2. 研究方法

a. 研究対象のカタカナ英語選択基準

現代日本語のなかで、性別年齢に無関係に、一般的に使われている基本的なものに限定する。

b. 研究方法

- (1) 上で限定されたカタカナ英語を、外来語になった時代背景、本来の英語からの派生の度合と方法、などの視点から分類する。
- (2) 同英語を、「カタカナを英語に直せ」と言う課題を大学生に書かせて、誤りの種類と度合とを測定・分類する。
- (3) (2)で得られた大学生の英語に対するカタカナ英語の影響度と、(1)で得られた外来語の影響度との相関関係を測定する。

3. 結論

外来語となった英語が、意志疎通に大きく影響しない場合は英語習得に積極的に活用し、影響する場合は留意を促すべきである。

高校生を対象とした5文型に対する聞き取り能力の差異について

亀山 孝

本発表は、学校英文法で言うところの基本5文型を用いた英文に対しての学生の聴解力の差異についての報告である。

本発表のもとになる調査は、1991年度において共愛学園高等学校・英語科Ⅲ年生全2クラスに対して1992年1月に行った。総員66名のところ、大学入試のため、学生数は両クラスで46名であった。学生の英語力レベルは中の上程度ではないかと思われる。

中学生向けの学習参考書を利用しての自作の英文とそれに対する選択肢問題を同僚のNATIVEに音読してもらい、それを録音したものを聴解力テストとして使用した。その結果を分散分析によって表し、解釈を加えてみたいと思う。

解釈上触れてみたい点は、各文型について学生の多くが意味をつかむ際に困難があった英文と特に聞き取りに困難さのあった第1文型である。また、第1文型だけの自作の聞き取りテストを二種類用意したものを後日実施し、その結果をも検定により表したのも合わせて報告したいと思う。

移民とことば — 移民の視点から

小河原弘士

ひとたび移民となった者の多くは、祖国に戻ることはない。戻ったところで、たちゆかぬことは自らが一番よく承知しているからである。たとえばアメリカ合衆国は、憲法 (Article 1, Section 8) で移民・帰化を保証しているような国である。新しい境遇はさまざまであろうとも、彼らは受入れ国に感謝しつつ、おおかた「庶民」としてその代を終える。庶民の願いは、— 一つの世もつつましいのではないか — 庶民をして生を全うしたい、ということであろう。多くの場合、その庶民 (市民と言ってもよい) は、自らの Rights を守りたい一心で市民権を取得する。庶民だからこそ「権利」を希求する、と言ってもよさそうである。このつつましい願いさえ叶えられないと知った時、仕方なく (つまり、追い詰められて) 移民となる道を考えるのではないか。だから、祖国で何らかの形でそれなりに充足している者にとっては移民になるなど正気の沙汰ではない、ということになろうか。

さて、ことばについてである。話を以上のような移民レベルにまでおとし、彼らにとって「ことば」とはなにか、を考えてみたい。この場合、繰り返すが、彼らの多くは経済移民だ、ということをおぼろげに忘れるべきではないだろう。食べることに汲々としている者に、高い教育や教養を期待するのは酷であろう。ことばは「教養」ではなく、「生きる」ための道具でしかない。ことばがわからなければ、まともな職にありつくこともおぼつかぬ。彼らにとって、まさにことばは生きていくのである。彼らの生きていくプロセスで、ことばは引き裂かれ、すり減り、手垢にまみれ、また磨かれもする。ここに、ことばの「進化」と「保守化」という問題が生ずる。ことばの進化として受け入れるのか、あるいは荒廃だとし、ことばの伝統を守るという保守化の方向にすすむのか、という問題である。今回は、アメリカとオーストラリアの例でこの問題を考えてみたい。

【事務局からのお知らせ】

<<第10回大会について>>

☆宿泊について

5月10日現在の宿泊申込は40名となり、予約部屋数が満杯となりましたので、ツインを4部屋追加しました。あと8人分の余裕がありますので、ご都合がついた会員は事務局までお気軽にお申しつけください。

☆割愛願いの発行について

大会参加を出張としてお届けの必要な会員には学会より割愛願を発行致しますので、事務局までお申越ください。

<<学会への入会について>>

会員の皆様方の多方面での御活躍の成果は、会員数の増加につながってきているようです。今年も10名以上の入会が見込まれます。当学会では、新入会員は原則として会員の紹介によることになっております。新しく会員をご紹介の節は、紹介者と入会希望者の双方が例会または大会へご参加をお願い致します。

また、新入会員は、例会、大会などでの発表を経た後に、分科会活動へご参加ください。

●新幹線をご利用の方は次の時刻表をご参照ください。

平成 4年 5月 1日現在

新幹線 (東京 ———> 広島)		¥17,700 (¥11,120 + ¥6,580)							
PART 1	ヒカリ 1	ヒカリ 71	ヒカリ 3	ヒカリ 73	ヒカリ 5	ヒカリ 75	ヒカリ 7	ヒカリ 77	ヒカリ 9
	博多行	広島行	博多行	広島行	博多行	広島行	博多行	広島行	博多行
東京	6:07		7:07	7:10	8:07	8:25	9:07	9:10	9:35
新横		6:42		7:27				9:27	
三島		6:59				9:08			
名古	7:57	8:38	9:00	9:08	10:00	10:27	11:00	11:08	11:30
新京都	8:41	9:23	9:44	9:53	10:44	11:13	11:44	11:53	12:16
新大阪	8:58	9:41	10:02	10:11	11:02	11:31	12:02	12:11	12:34
新神戸		9:56		10:26		11:46		12:26	12:49
新姫路						12:06			
新岡山	9:50	10:40	10:53	11:07	11:53	12:32	12:53	13:07	13:31
新倉敷		10:52				12:45			
新山道		11:06		11:28		12:59		13:28	
新尾道		11:17				13:10			
新原島		11:24				13:20			
新三島		11:38				13:34			
広島	10:35	11:51	11:38	11:58	12:38	13:47	13:38	13:58	14:17
	食堂車	食堂車	食堂車	カフェテリア	食堂車	食堂車	食堂車	カフェテリア	食堂車
	JD	JD	JD	JD	JD	JD	JD	JD	JD
		ビュッフェ				ビュッフェ			ビュッフェ
PART 2	ヒカリ 11	ヒカリ 79	ヒカリ 13	ヒカリ 81					
	博多行	広島行	博多行	広島行					
東京	10:07	10:25	11:07	11:10					
新横				11:27					
三島		11:25							
新静岡		11:51							
新浜松									
新豊古	12:00	12:27	13:00	13:08					
新京都	12:44	13:13	13:44	13:53					
新大阪	13:02	13:31	14:02	14:11					
新神戸		13:46		14:26					
新姫路		14:06							
新岡山	13:53	14:32	14:53	15:07					
新倉敷		14:45							
新山道		14:59		15:28					
新尾道		15:10							
新原島		15:20							
新三島		15:34							
広島	14:38	15:47	15:38	15:58					
	食堂車	食堂車	食堂車	食堂車					
	JD	JD	BT	JD					
		ビュッフェ		ビュッフェ					

カフェテリア=takeout方式
 JD=ジェイ・ダイナー
 BT=ビュッフェとうきょう

【分科会委員会からのお知らせ】

◆第一分科会からの報告

吉田俊実

<第4回分科会会合>

日 時：2月29日2時より

場 所：談話室滝沢（新宿店）

出席者：君塚淳一、銀川啓介、五味田幸夫、相良英明、佐藤成男、高取清、吉田俊実

会合内容：“Lacan and the Discourse of the Other”の精読（テキストpp.159-162）

議論の対象となった用語・・・鏡像段階、シニフィアンの連鎖、
ポワン・ド・キャピトン

<第5回分科会会合>

日 時：3月31日2時より

場 所：桐原書店会議室

出席者：高取清、五味田幸夫、佐藤成男、相良英明、君塚淳一、吉田俊実

会合内容：“Lacan and the Discourse of the Other”の精読（テキスト
pp.163-165）

議論の対象となった用語など（小）他者、対象 a、主体の疎外、
想像的同一化

次回までの研究課題：「ナルシズム」について

※次回会合予定 5月16日 3：00より 桐原書店にて

◆第二分科会からの報告

君塚淳一

<第一回分科会会合>

日時 3月26日 6時より

場所 談話室 滝沢 新宿店

出席者 小沢玲子 君塚淳一 五味田幸雄 佐藤成男 穴戸絵里子 高取清

第一分科会と同様、活動の目標を共同執筆や翻訳年、各自の研究に還元できる内容の書物を出し合い、読み進めて行くことに決定した。次回にはそれぞれがその対象となりうると思われる書物を持ち寄り、検討する予定。

次回会合予定 5月30日 6時より 滝沢 新宿店にて

◆《第三分科会準備会からの報告とお願い》

去る4月13日に池袋「滝沢」にシェイクスピア研究を希望する学会員4名（佐藤、小野、門野、中村）が集まって、正式に第三分科会を発足するための率直な話し合いを持ちました。研究テーマをどのようなものにするかについていろいろな意見を交換しましたが、一応、シェイクスピアの sources を中心に研究を進めたいという方向に落ち着きました。しかし、本分科会はもっと間口を広げて、エリザベス朝とジャコビアン朝の文学等をご専攻の先生方に参加戴きたく存じます。

つきましては、第三分科会を発足するにあたり、本会にご加入される会員を募りたく存じます。新たにご参入の先生方を交えて再度研究テーマを検討し活動に移りたいと考えます。第三分科会第一回目の会合は6月1日5時30分より池袋「滝沢」にて行ないます。入会ご希望の先生は5月31日までに下記までお葉書にてお知らせ下さい。

連絡先：中村 豪（仮代表）

郵便番号363

電 話

桶川市川田谷2509-12

048-787-4693

☆プログラムが確定しました

8月27日 受付開始 16時30分より

講演 17時 19時より

懇親会 19時 21時より

広島ガーデンパレス2階 「とき」の間にて

(その後、お好み焼きでも食べに行けるように軽食を中心としたスナックパーティー風に注文してあります。所要時間1時間。)

会費 3000円 当日申込を受付ます

8月28日 9時より16時まで研究発表

閉会 16時30分

☆詳細は大会プログラムを近日中にお送りしますので、そちらをご覧ください。

<<会員の動き>>

--新入会員--

--住所等の変更--

◎投稿指針が改正されました。

『英米文化』投稿規定

- 1 内容
 - a) 英語文化にかかわる論文。英米文学、英語学、英語教育、英米文化研究など。
 - b) 応募論文はすべて未発表のものに限る。
- 2 長さ・形式

和文論文：400字詰め横書き原稿用紙20～40枚程度。ワープロの場合は、40字×20行で打ち出すこと。

英文論文：ダブルスペースで15～30枚程度（1枚65ストローク×25行）

 - a) 注は原稿末尾にまとめる。
 - b) 注のノンプルは裸のアラビア数字を用いる。
 - c) 外国の人名、書名等は、著名なものを除き、初出の箇所原名を書く。書式の細部に関しては、MLA Handbook for Writers of Research Papers: Second Edition（邦訳『MLA新英語論文の手引 第2版』北星堂 昭和61年）を参照のこと。
- 3 ABSTRACT・英文表題及び略歴

論文には英文・和文共に、英語200words程度のABSTRACTをつけること。和文論文には英文表題をつけること。

略歴（所属学校・機関など、及び研究分野・主要研究テーマ）をつけること。
- 4 締切
毎年10月末日とする。
- 5 送付先
学術委員会宛に送付すること（注1参照）。
封筒に「英米文化原稿」と矢書すること
- 6 原稿審査
応募原稿は学術委員会による審査の上掲載を決定する。
論文の採否は、12月末頃までに投稿者に通知される。
- 7 編集・校正
編集は、編集委員会にて行う（注2参照）。
執筆者校正は二校までとする。校正に於ける修正はミスプリント程度とする。
初校は1週間以内、再校は3日以内に返送すること。
- 8 著作権
会誌全体の著作権は英米文化学会が有し、個々の論文の著作権は執筆者が有する。
- 9 執筆者負担金
印刷1ページにつき2500円（抜刷代込み）とする。
『英米文化』完成後、財務委員会で負担金額を決定し、執筆者に通知する（注3）。
執筆者には掲載誌5部及び抜刷50部を贈呈する。
- 10 ワープロによる投稿の場合
ワープロまたはパソコンによる投稿の場合、打ち出した原稿及び保存（セーブ）したフロッピーディスクを提出すること。フロッピー・ディスクに、使用機種名（パソコンの場合は、機種名と使用ワープロ・ソフト名）及び保存したときの文書名を書いておくこと。印刷所で変換できた場合は、1ページ当りの料金を、2000円とする。

注1：学術委員会

注2：編集委員会

注3：財務委員会

深井宏一

相良英明

高取 清

編集発行 英米文化学会編集委員会

相良英明、中村豪、池田広子、宮崎敬子、山根正弘、宮本正和、君塚淳一

発行責任者 〒

相良英明